



中学校部会会報

全日本音楽教育研究会

平成28年2月5日発行 通算第71号

静岡大会を終えて

全日音研静岡大会副実行委員長 静岡県支部長 伊藤 静雄(静岡市立清水第四中学校長)



全国各支部各地域より多くの皆様が本大会にお集まりくださったことについて、御礼申し上げます。

さて、私たち静岡県教育研究会音楽教育研究部は50年を超える歴史の中、今まで地道に研究と会員相互の絆を深めてまいりましたが、近年教職員の多忙化や財政難による研修旅費確保の難しさ等により、研究活動に一抹の不安を抱えておりました。そのような中、全国大会開催という大役をいただいたことは、私たちにとって大きな挑戦であるとともに、かなり無謀な挑戦であったと思います。しかし、大会を終えた今、よりよい授業づくりを求めて教職員一人一人が弛まぬ研修を積み重ねること、さらに、組織として学び成長することの大切さを改めて感じています。

これもひとえに、研究のあり方や公開授業の方向性についてご指導いただいた文部科学省教科調査官の臼井学様をはじめ、授業内容に深く関わってくださった助言者の皆様、そして、大会に参加してくださった皆様から多くのご示唆と励ましの言葉をいただくことができたおかげと感謝しております。

また、静岡大会において、全国理事会、各部会総会の審議を経て、全国大会の開催についてブロック輪番制が承認されました。私たち静岡県教育研究会音楽教育研究部は非力ではありますが、本大会のテーマ「ひろがれ音楽 つながる心」の精神を大切に引き継ぎ、全国各支部の皆様と連携・協力して、これからの音楽教育の充実、発展に取り組んでいく所存です。

静岡大会開催をとおして、全国の皆様から大きなご支援と激励をいただいたことを重ねて感謝申し上げ、お礼の言葉とさせていただきます。

函館・道南大会に向けて

全日音研函館・道南大会実行委員長 北海道支部長



梶田 邦昭(札幌市立新琴似北中学校長)

平成28年、今年はペリー来航から160年、函館で初めての全日本音楽教育研究会全国大会函館・道南大会を開催いたします。大会テーマ「ひびきあい つながり・ひろがる 音楽のメッセージ」は、子どもたちが楽しく音楽活動にかかわり、学び合いを通してそれを他者につなげていく姿をイメージしております。

小・中学校ともに音楽集会后、授業を6本予定しております。午後は会場を函館市民会館に移し、見所の一つでもある記念演奏Ⅰ『中学生オペラ「アイダ」』をご覧ください。9月に五稜中学校に市内から16名のキャスト希望者が集まり、講習会が行われ、11月8日のオーディションでそれぞれ配役が決定されました。2日目も市民会館において講評と記念演奏Ⅱ「道南の音楽」が予定されております。江差追分も聴けます。

全日音研のプレ大会を兼ねた第43回道南音楽教育研究大会が、函館市立亀田中学校を会場に開催されました。小学校2本、中学校2本の研究授業が行われ、参加者は100名を超えました。亀田中学校の全校音楽集会后も明るく温かい雰囲気の中にしつかりとした学校文化を感じる集会でした。函館・道南の先生方が全日音研に向け準備を進め、心意気を感じる大会となりました。

11月1日(火)、2日(水)は函館・道南大会です。今年の3月には新幹線も開業いたします。飛行機または新幹線といった選択もできるようになります。全国から一人でも多くの音楽を愛し音楽教育に携わるたくさんの仲間が集い、多くの成果と感動を分かち合い、勉強させていただければとればと考えております。

Contents

- P 1 静岡大会を終えて 伊藤 静雄 / 函館・道南大会に向けて 梶田 邦昭
- P 2~3 全日音研静岡大会講評
国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 臼井 学 氏
- P 3 全国理事会
- P 4~5 静岡大会《小・中学校部会大会》 研究授業レポート
- P 6 全日音研静岡大会研究演奏・Information

発行

全日本音楽教育研究会 中学校部会
東京都墨田区堤通 2-19-1
墨田区立椋堤中学校内
会長 菊本 和仁

◆ 講評 ◆

国立教育政策研究所教育課程研究センター研究開発部 教育課程調査官
文部科学省初等中等教育局教育課程課 教科調査官 臼井 学 氏
日時：平成27年10月30日（金） 9：50～
場所：静岡市清水文化会館 マリナート 大ホール



中学校では、「つなげよう ひろがる思いと わたしの音楽」の主題のもと実践的な研究をしてこられました。今年の2月に中学校の先生方を中心とした研究会に参加させていただきました。その際、授業をされたのは、本大会の小中学校の研究部長、先程ご発表された八木先生でした。このような研究大会にあたって研究部長の先生が自ら授業を公開し、その授業をもとによりよい授業づくりについて検討しようという場を設定されている姿に、本大会にかける熱い思いを感じたことを思い出します。

そのような真摯なお取組の積み重ねがあつてこそこの公開授業だったと思います。

中学校では研究主題に迫るための3つの視点のそれぞれに、3つずつ具体的なポイントが示されています。この中から、(2)③振り返りの場の設定・方法と(3)③必然性のある指導・支援について少し触れさせていただきます。

まず「振り返りの場の設定・方法」についてです。

音楽の授業を終えた時、生徒は「どのような活動をしたか」について覚えているけれど、「何を学んだのか」についてはよくわからない、ということはないでしょうか。このことは、音楽科が何を学ぶ教科なのかということを明確にする、ということと密接に関わっているという点で大切なポイントであると思います。

次に、必然性のある指導・支援についてです。

授業で大切にしたいことの一つに、「生徒の意識の流れ」があると思います。どのような学習活動であっても、生徒の意識の流れに乗っていない活動は、効果的な学習につながりません。ここでは、「生徒にとって」必然性のある指導・支援という考え方で書かれています。一見、当たり前のことのように感じますが、授業する際、私たちが「教師にとって」必然性のある指導・支援ばかりになってしまうことはないでしょうか。このポイントから、私たちが授業を見直す機会を与えていただいたと思っています。

それでは、昨日の公開授業で私が拝見させていただいた場面から感じたことについて、参観させていただいた順にひと言ずつ触れさせていただきます。

加藤先生の歌唱「長唄」の授業です。

先生が実際一人で唄われた後、先生はこのようにおっしゃいました。「先生はプロではないけれどね」ということを言いつつ、「まずプロの方はどうか、CDも聴いてみて」ということを子どもたちに投げかけ、さらにグループ活動に入る前に「今のみんなより長唄らしいものに変えられるといいですね」という投げかけをされていました。「プロみたい」ではなく「今のみんなより」というところが私はすごく良かったと思っています。またプロではない先生が唄って聴かせた点が良かったと思います。それは、できる範囲でやろうとするからこそ、より特徴的なことを取り入れようとする学習につながっていくのではないかと思ったからです。こんな点が非常に参考になったと思います。

佐伯先生の歌唱「帰れソレントへ」の授業です。

グループで歌い方を追究している場面でした。音の動きや歌い方を、「楽譜で」「手で」「声で」「ピアノで」確認し、自分たちのできる様々な方法で試していました。追究の意欲、思いや意図があれば、生徒はこれまでの学びを総動員して自分なりの表現の実現に向かうことができるということを生徒の姿から実感いたしました。またこの授業に関する研究協議の中で、生徒の「悲しいは弱いだけではない」という言葉をきっかけとして、強弱の質的なとらえについて協議がなされておりました。とかく強弱は、物理的な量的な大小、そういったことだけにとらわれてしまいがちですが、物理的には小さい音かもしれないけれども、強さを感じる音は音楽の中には実際にはあると思います。そういった質的なところに迫る協議がなされていたことも大変有意義であったと思いました。このことは、特に中学校、高等学校において大切なことだと思えます。

続いて、榊原先生の鑑賞「ブルタバ」の授業です。

グループで前半後半の主題を楽譜を見ながら聴き比べ、その特徴を見つけ、そこに込められた思いを想像するといった活動をされていました。音色、旋律、構成、この3つの要素の知覚・感受に基づく生徒の発言が見られ、学習の軸が明確であったと思いました。このような題材では、背景などを知ることが聴き深めることにつながっているかということが大切です。この授業を参考に、背景などが単なる知識としてだけでなく鑑賞を深めることにつながる実践が増えていくことを期待しています。

続いて、佐藤先生の創作の授業です。

この授業は、速度、強弱、構成の知覚・感受を支えとした学習を計画して、それが実際の授業でも明確になっていたと思います。また強弱について子どもたちが、「船が遠ざかるからだんだん小さくなる」ということだけに留まらず、「ゆるやかに変わる」「急に盛り上がる」というような変え方に着目した生徒の発言がありました。これが、より豊かなイメージにつながっていくのだらうと思いました。

続いて酒井先生の歌唱「黒い瞳」の合唱の授業です。

ここでは休符をどのように扱うかということを考えていました。休符をどのように感じるか、それをその後の歌い方にもどのようにつなげていくかということ、手拍子を打つことによって休符の感じ方を追究していくという場面を見せていただきました。歌い方をどうするかということには、これまで学んだ既習事項を生かしている点も非常に良かったと思っています。休符を扱うことの大切さをご提案いただいた授業だと思っております。

滝先生の和太鼓の授業です。

ちょうど生徒が自分たちで作った作品の演奏を先生が聴いておられる場面でした。そこで先生は生徒の演奏をじっくり聴いて、聴き取ったことや感じ取ったことをもとに「掛け声はみんなで作りたいのかな」とか「ここは〇〇になっていたけれど、〇〇したいということなのか」と声かけをされていました。そのことによって子どもたちの思いや意図をより明確にし、太鼓の演奏につなげていくことをされていました。ここで感じたのは、生徒に「知覚・感受を」と言いますが、私たち教師自身が本当に生徒の音や音楽に耳を傾けて、知覚・感受しながら授業をしているのかということです。滝先生はまさにそれをされておられることによって、子どもたちと音楽を共有されておりました。

以上雑駁ではありますが、拝見させていただいた場面を中心にお話させていただきました。

様々な成果が得られたこの研究をきっかけとして、一層の充実、また成果が広がっていくことを期待しております。

私たちの研究や研修は、授業がなければ、またそこに子どもたちの姿がなければ成立しません。公開授業にあたり、様々にご理解ご協力いただきました関係校の校長先生はじめ教職員の皆様、保護者の皆様、そして何よりも慣れない環境の中で、日頃の学習の成果を発揮し、生き生きと音楽とかかわる姿を見せてくれた児童生徒の皆さんに心より感謝申し上げます。本当にありがとうございました。

また、このような素晴らしい研修の機会を設定していただきました、大会実行委員長の長野恭江先生をはじめとする実行委員の皆様、授業者の先生方に心より敬意を表するものでございます。本大会のご成功にお祝いを申し上げますとともに、ご参会の皆様の一層のご活躍をご祈念申し上げ、講評とさせていただきます。

ありがとうございました。

平成27年度 全日本音楽教育研究会全国大会 静岡大会（総合大会）

◆全国理事会◆

日時：平成27年10月28日（水） 16:00～

会場：常葉大学



全国理事会は、小学校から大学まで合計77名が出席して開催されました。福井直敬会長の挨拶後、全国大会実行委員長の長野恭江先生の歓迎の言葉、出席者の紹介と続き、その後、梶田邦昭北海道支部長を議長として議事を進めました。平成26年度事業報告・決算報告・監査報告、平成27年度役員・事業計画・予算案は拍手多数で承認されました。その後小松康裕本部事務局長より平成32年度以降の全国大会開催地決定方法本部案が示され、質疑が行われました。本部案は承認され、平成32年度からの全国大会地区輪番制が決定しました。続いて平成28年度から31年度までの全国大会開催予定を確認後、議長は解任されました。最後に平成28年度、平成29年度全国大会の紹介があり、全国理事会は幕を閉じました。



◆研究授業レポート◆

日時：平成27年10月29日（木）

会場：静岡市立城内中学校・静岡大学教育学部附属静岡中学校

大会主題 『ひろがれ音楽 つながる心』



【歌唱】第2学年

題材名 「長唄の歌唱を通して歌舞伎の魅力に迫ろう」

教材名：歌舞伎「勧進帳」 長唄「勧進帳」

指導者 静岡市立観山中学校教諭 加藤 美幸

「長唄らしさは何か」という発問を中心に、個人で考えたり、グループで意見を交わしたりしながら授業が進んだ。手本とする音源に、生徒と同年代の人物のもの、女声プロによる範唱の2種を用意していた。本時では、女声プロのものを見本として何度も繰り返し聴きながら、その声の音色や旋律の抑揚などの特徴を真似して唄った。

本大会に向け、授業者は地域にある大学と連携し、熱心に長唄を勉強し、授業の導入として長唄の謡を独唱するなど、その魅力を生徒に伝えようと懸命だった。生徒と共に「長唄」を学んでいこうとする真摯な姿勢に好感が持てた。



【創作】第1学年

題材名 「構成を工夫した音楽をつくろう」

教材名：情景を音楽で表す楽しさを味わおう

指導者 静岡市立安東中学校教諭 佐藤 美和子

映画音楽「ジョーズ」を聴き、音楽を形作っている要素とイメージがどのように結びついているかを学習し、音楽的な特徴を生かしながらグループ創作を行っていた。創作したモチーフをもとに、反復、変化などを生かして構成を工夫し、「船が近づく」「目の前を通る」「遠ざかる」の場面をドローン、メロディ、飾りの3つの役割に分かれて活動していた。

鍵盤楽器は基本的に5音階を用い、音素材や楽器の鳴らし方などの音色を選び、リズム、速度、強弱をグループで相談し表現の工夫を行った。合わせて音の重なり（テクスチャ）も確認していた。

今後、グループごとに発表するとのこと。他のグループの中間発表を聴いたことで、曲の構成や表現の工夫に有効だったと思われ、創意工夫に満ちた発表会になることと期待された。



【歌唱】第3学年

題材名 「声の色は心の色～カンツォーネ・ナポリターナを通して～」

教材名：「帰れ ソレントへ」

指導者 静岡大学教育学部附属静岡中学校教諭 佐伯 優子

教材の「帰れ ソレントへ」は、ソレントの美しい自然と一人の男性の恋心を歌っていて、情熱的な歌唱表現が要求される。生徒たちは、4つのグループに分かれ、「どのように歌ったら歌詞の感情に合った歌声になるか」を試行錯誤し、よりカンツォーネ・ナポリターらしい歌い方を追究する授業であった。最後には、グループごとに表現の工夫点を発表し、歌詞の感情変化を意識してリレー形式による歌唱発表を行った。生徒たちは、自分が担当する前の部分をよく聴き、その表現につながるよう自分の音楽を表現する。生徒同士の音楽がつながり、思いがひろがり、聴いている人に歌詞のメッセージが伝わる歌声だったと感じた。



【鑑賞】第3学年

題材名 「音楽の背景にある文化・歴史を理解して鑑賞しよう」

教材名：連作交響詩「我が祖国」から「高い城」「ブルタバ（モルダウ）」（スメタナ）

指導者 静岡市立豊田中学校教諭 榎原 さと子

「我が祖国」の音楽の特徴を、政治的・歴史的背景をふまえ、曲に込められた思いを感じ取る内容の授業であった。

「ブルタバ」の主題A（ブルタバのテーマ）とF（幅広く流れるブルタバ）を聴き比べ、音楽を形づくっている要素を聴き取り、2つの旋律に込めた作曲者の心情を考えた。理解を深めるため、音楽の特徴を可視化したり、旋律の波を身体表現したりした。その後、個人でワークシートにまとめ、グループで話し合い、全体発表を行った。最後に発表の内容を確認しながら、もう一度2つの旋律を聴いた。真剣に耳を傾ける生徒たちの中に、音楽をより深く追究する姿勢が見られ、有意義な実践であったと感じた。



【歌唱】第2学年

題材名 「曲の構成を生かした表現の工夫」

教材名：「黒い瞳」混声三部合唱（ロシア民謡）

指導者 静岡市立籠上中学校教諭 酒井 映理子

ロシア民謡「黒い瞳」を教材とし、本時では3拍子の部分を取り上げ、3拍子にふさわしい音楽表現の工夫を追究した授業であった。

授業では、「黒い瞳の世界を表現する設計図」を活用。曲全体を6つの場面に分け、それぞれの場面がどのような音楽で構成されているかを復習した。その後、3拍子の冒頭部分を拡大した楽譜を掲示し、全員で3拍子の表現について話し合った。「強拍なのに休符になっている」「休符は音がないから表現しづらい」「強拍の休符は、うん！と心の中で強く感じるといい」など、活発に意見が交わされた。歌に合わせて手拍子したり、平泳ぎの動きをしたり、指揮をしたり、と様々な試みをする中で、生徒たちの中に「3拍子を生かすためにどのように歌うか」という思いが育ってきたように感じた。最後の合唱は、強拍を感じた推進力のある3拍子を表現していると思った。



【器楽】第2学年

題材名 「めざせ！興津太鼓の達人～和太鼓に魂を込め、打ち鳴らそう～」

教材名：「興津太鼓」

指導者 静岡市立清水興津中学校教諭 瀧 大輔

教材名は「興津太鼓」。指導者創作による中学校名の教材を使用していたのが印象的だった。

授業では、まず全員で伝統音楽の特徴を確認した。その後グループごとに、構成図をもとに、音色、強弱、テンポ（序破急）による曲想の変化を試しながら創意工夫していった。活動の途中で、生徒の創作部分（3種類のリズムパターンの組み合わせによるもの）を含め、代表2グループによる発表があった。他グループの発表を聴き、工夫点を確認したことで、それぞれのグループの創意工夫に有効であったと感じた。

清水興津中学校の近くにある神社には太鼓保存会があり、地域に伝わる伝統音楽が大切に守られているという。生徒の生活と密接な関わりがある伝統音楽。これからも伝統を受け継ぎ、守り、次の世代に伝えていってほしいと強く思った。



◆研究演奏◆

日時：平成27年10月30日（金） 11：20～

場所：静岡市清水文化会館 マリナート 大ホール ※『 』は演奏曲目



1 オーケストラ 静岡県西遠女子学園（中学1年～高校2年）

『BELIEVE』 <指導・指揮：村木秀駿 教諭>

合同演奏 静岡県立中央特別支援学校（高等部第1，2，3学年）

<歌唱指導：足立恵子 教諭>

静岡県立清水特別支援学校（高等部第3学年）

<歌唱指導：川邊直美 教諭>

『ハンガリー舞曲第5番』

<指揮：村木秀駿 教諭>



2 合唱 静岡市立清水岡小学校（第6学年）

『大樹の子守唄（ララバイ）』 <指導・指揮：水越國香 教諭>

『風のあとから』

一人一人が思いをもち、言葉を大切に歌う
～心をひとつにつなげあうことのすばらしさ～



3 伝統音楽 静岡市立清水第五中学校（第3学年）

『羽衣』 <指導：岩科秀明 教諭>

「我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わおう」

<指導：佐野 登 さん（宝生流能楽師シテ方）>

地域の貴重な文化財となっている三保松原が舞台となっている羽衣伝説
～日本独自の発声や節回し 謡の特徴を生かした表現～



4 合唱 藤枝順心中学校・高等学校（中学1年～高校3年）

<指導：佐藤典子 教諭・小澤保雄 教諭>

『来たれ、主よ（Veni Domine）』

<指揮：佐藤典子 教諭 伴奏：中川真理子 教諭>

『花の哀歌（VIRÁGSIRATÓ）』 <指揮：佐藤典子 教諭>

『木霊』 <指揮：小澤保雄 教諭>

「楽曲への理解を深め、作品のもつ世界を豊かに表現しよう」



Information

全日音研中学校部会ホームページも是非ご覧ください。 <http://zennichionken-jhs.jp/>